37. 気管支喘息患者における各種負荷 (H.D., Ach, His) 時の Kr-81 m による局所換気機能の検討

○重本　歴　北田　修
岸本　亮　楳垣　寛治
杉田　実
(兵庫医大・3内)
福地　稔　兵頭　加代
立花　敬三
(同・RI 診)

寛解期アトピー型喘息患者に対し，ハウスダスト，アセチールコリン，ヒスタミンの3者による吸入発作誘発テストを施行し，同時に得たスパイログラムの成績と，クリプトン 81 m による ventilation image から発作誘発時の ventilation pattern について検討した．発作誘発時のクリプトン 81 m の image から，asthmatic attack における気道閉塞は localized であると考えられるが，今回の検討では regional な defect pattern を呈するものと，spotted な defect pattern を呈するものとが認められ，その pattern は吸入誘発物質の差異よりも被験者の別に依存していると思われた．また，肺機能所見との関連をみると，regional defect pattern を呈するものでは1秒量，MMF に比べ $\dot{V}_{25}$ のおちこみが小さく，spotted defect pattern を呈するものでは $\dot{V}_{25}$ のおちこみが大きい傾向が認められた．

38. ^{123}I-甲状腺摂取率6時間値の検討

○西本　儀正　森井　浩世
(大阪市大・2内)
越智　宏暢
(同・放)
松本　茂一　日高　忠治
村上　祥三　中井　俊夫
(日生・放)

近年，甲状腺ヨード摂取率ならびに甲状腺シンチグラフィーにおいて，^{131}I に代わって ^{123}I が使用される機会が多くなってきた．^{123}I は被曝線量が少ない有利な点がある反面，従来のごとく24時間でシンチグラムをとる場合，半減期が13時間と短かく，不利な点も有している．われわれは日生病院において過去2年間にわたり，計266例の甲状腺検査に日本メジフィジックス社製の ^{123}I カプセル 100 μCi を用い，6時間後に摂取率測定とシンチグラフィーをとり，24時間後にも摂取率を測定してきたので，6時間後の摂取率と24時間後の摂取率とを比較検討した結果，次のごとく結論を得た．

①6時間値がすでに60%以上の高値に達しているものでは24時間値は39例中1例（64.8%から58.5%に減少したもの）を除き，全例が60%以上であった．②6時間値が10%以下のもので，24時間値が明らかに変動したものは38例中1例のみであった．以上 ^{123}I による甲状腺検査を施行するに際しては，放射性ヨード投与後6時間の甲状腺へのヨード摂取率が60%を越える症例，または10%以内の症例については，臨床症状，理学的所見ならびに他の甲状腺機能検査成績なども参考にすれば，6時間後の摂取率測定のみですむ症例もかなりあるのではないかと考える．

39. シグマ 410 S シンチカメラ ——マルチフォーマッタの使用経験

西端　治美　芝崎　恭子
(国保日高総合・RI)
東　克彦
(同・内)
丸山　正二
(同・放)
白井　穣
(同・中検)
鳥住　和民　三島　隆生
(和歌山医大・放)

このたび，国保日高総合病院に設置された Ohio-Nuclear ∑410S 付属品のマルチフォーマッタは低価格であり，かつ機能面においてもウルチ

Presented by Medical*Online